

編集後記

2023 年 5 月に新型コロナウイルス感染症が感染症法上の 5 類に移行されて行動制限がなくなり、徐々に対面での授業や研究会が再開するなど、教育現場に活気が戻ってきました。このような活気を反映するかのように、アカデミック・ジャパニーズ・ジャーナル (AJJ) 第 15 号には、調査報告 5 編、短信 4 編、計 9 編と多くの論考が掲載されています。

今号は、オノマトペ、依頼表現など語彙・表現に注目したテーマや、教員間の引継ぎノート、学習者の振り返り、帰国生の語りにもみられる問題意識など教師や学習者による外言に注目したテーマ、仲介における要約スキルや文章作成における経験則を明らかにしようとするテーマなど興味深い論考が集まり、教育と研究の往還が活発に行われていることがうかがわれます。本号をお読みくださる読者の皆様との活発な議論につながるであろうことが期待されます。

コロナ禍による行動制限がなくなった教育現場で、今後ますます意欲的な教育実践や調査が行われていくことでしょう。会員の皆様のご投稿をお待ちしております。

(編集委員 M. K. 記)

刊行：2023 年 8 月

編集委員* (**は委員長)・アドバイザー五十音順

*石澤徹 (東京外国語大学) *伊藤奈津美 (山梨学院大学)・牛窪隆太 (東洋大学)
大島弥生 (立命館大学)・大野早苗 (順天堂大学)・*小笠恵美子 (昭和音楽大学)
*数野恵理 (立教大学)・***小森万里 (大阪大学)・*田中信之 (富山大学)
*藤田裕一郎 (朝日大学)・*吉田美登利 (東京工業大学)